

☆RIM LORRY RACK PRICE INTELLIGENCE DAILY

★No. 5051 Oct 1 2019

Copyright(C) 2019 RIM Intelligence Co. All rights reserved.

東京時間2019年10月1日火曜日17時30分<Assessment Closing Time>

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

「4リム価格」は登録商標です 登録番号・第5660925号

「リムラック価格」は登録商標です 登録番号・第5660926号

◎お知らせ

○リム「バンカーオイルレポート」のご紹介

本日は、弊社発行の「バンカーオイルレポート」を添付いたしました。

バンカーオイルレポートでは、日本、韓国、中国、シンガポールなどのアジア主要港を始め、中東、欧州、米州のバンカー価格・需給動向を掲載しております。

このたび、2020年IMO硫黄規制開始に先立ち、バンカーオイルレポートでは2019年9月3日より適合油(VLSFO)の価格アセスメントを開始いたしました。リム独自の取材による適合油価格・需給動向が、皆様の相場理解の助けになればと存じます。

是非、御社の関連部署にお読みいただければと思います、勝手ながら添付させていただきました。ご興味をお持ちになりましたら、トライアルとして送らせていただきます。

内容についてのご質問等は、リム・バンカーチームの担当者までご連絡ください。

○アセスメントメソッドロジーの変更について

ローリーラックレポートでは、10月1日(火曜日)から以下の点を変更します。

- ①A重油のアセスメント対象を「硫黄分0.5%品」、LSA重油を「硫黄分0.1%品」とします。
- ②A重油の取引が少ない東名阪油槽所の八潮、横浜、中京、阪神でA重油のアセスメントを中止します。
- ③中京油槽所のアセスメント適用出荷地を「名古屋港潮見埠頭(9号地)」だけにします。

-----リムレポートのご紹介-----

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/first/report>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG
石油化学	ポリオレフィン	LNG
電力	デیلیーデータ	Rim Data File
CROSS VIEW軽油	CROSS VIEW重油	

上記に関するお問い合わせはこちらまで

TEL 03-3552-2411 E-mail info@rim-intelligence.co.jp

東京時間2019年10月1日火曜日17時30分<Assessment Closing Time>

◎東名阪製油所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	千葉	中値	前日比	川崎	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン	59.0～59.8	59.40	-0.65	59.2～60.0	59.60	-0.45	59.50	-0.55
灯油	61.5～62.5	62.00	-0.40	61.5～62.5	62.00	-0.40	62.00	-0.40
課税軽油	60.6～61.6	61.10	-0.40	60.8～61.8	61.30	-0.20	61.20	-0.30
未課税軽油	62.5～62.8	62.65	-0.10	62.5～62.8	62.65	-0.10	62.65	-0.10
A重油	59.5～60.5	60.00	-0.40	59.8～60.8	60.30	-0.10	60.15	-0.25
LSA重油	60.0～61.0	60.50	-0.40	60.2～61.2	60.70	-0.20	60.60	-0.30

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	4リム中値	前日比
ガソリン	58.7～59.2	58.95	-0.15	59.0～59.7	59.35	-0.45	59.33	-0.42
灯油	61.0～61.5	61.25	0.00	62.0～62.5	62.25	0.00	61.88	-0.20
課税軽油	60.5～61.5	61.00	0.00	60.3～61.0	60.65	-0.35	61.01	-0.24
未課税軽油	62.3～62.8	62.55	0.00	62.0～62.5	62.25	0.00	62.53	-0.05
A重油	60.0～61.0	60.50	0.00	60.0～61.0	60.50	-0.25	60.33	-0.18
LSA重油	60.5～61.5	61.00	0.00	60.5～61.5	61.00	-0.25	60.80	-0.21

◎東名阪油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	八潮	中値	前日比	横浜	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン	57.9～58.1	58.00	-0.15	57.5～57.7	57.60	-0.20	57.80	-0.18
灯油	62.0～63.0	62.50	+0.80	60.5～61.1	60.80	-0.45	61.65	+0.17
軽油	62.0～63.0	62.50	+1.30	59.8～60.3	60.05	-0.35	61.28	+0.48
LSA重油	59.5～60.0	59.75	+0.50	58.8～59.0	58.90	0.00	59.33	+0.25

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	油槽所中値	前日比
ガソリン	58.7～59.2	58.95	-0.10	58.9～59.7	59.30	-0.40	58.46	-0.22
灯油	60.5～61.5	61.00	-0.15	62.0～62.5	62.25	0.00	61.64	+0.05
軽油	60.7～61.5	61.10	-0.05	60.5～61.5	61.00	-0.50	61.16	+0.10
LSA重油	60.5～61.5	61.00	0.00	60.7～61.7	61.20	-0.25	60.21	+0.06

※前日比は中値ベース

※製油所の京浜中値は千葉・川崎中値の単純平均値

※4リム中値は千葉・川崎・中京・阪神製油所の単純平均値

※油槽所の京浜中値は八潮・横浜中値の単純平均値

※油槽所中値は八潮・横浜・中京・阪神の単純平均値

※ローリーラック価格、輸入採算価格、海陸市況格差、先物のガソリンはレギュラーが対象で揮発油税53.8円を含まず

※軽油は軽油引取り税32.1円を含まず

※中値は小数点第3位を四捨五入

※原油輸入平均CIF価格の r は修正

※為替は三菱UFJ銀行が午前10時30分に発表する数値を使用

◎東名阪製油所・油槽所出し中値平均値 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	京浜地区	前日比	中京地区	前日比	阪神地区	前日比
ガソリン	58.65	-0.36	58.95	-0.13	59.33	-0.42
灯油	61.83	-0.11	61.13	-0.07	62.25	0.00
軽油	61.71	+0.03	61.55	-0.02	61.30	-0.28
A重油	60.15	-0.25	60.50	0.00	60.50	-0.25
LSA重油	59.96	-0.03	61.00	0.00	61.10	-0.25

※A重油は製油所平均値

◎その他の製油所・油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	北海道	中値	前日比	仙台	中値	前日比
ガソリン	61.5～61.7	61.60	0.00	61.4～61.7	61.55	0.00
灯油	63.3～63.5	63.40	0.00	63.0～63.5	63.25	-0.05
軽油	63.4～63.6	63.50	0.00	63.0～63.5	63.25	0.00
A重油	61.0～61.5	61.25	0.00	61.0～61.5	61.25	0.00
LSA重油	61.5～62.0	61.75	0.00	61.5～62.0	61.75	0.00

油種	四国	中値	前日比	福岡	中値	前日比
ガソリン	59.5～60.0	59.75	-0.20	59.0～59.7	59.35	-0.35
灯油	62.0～62.6	62.30	-0.85	63.0～63.6	63.30	-0.10
軽油	61.2～62.2	61.70	-0.20	62.5～63.0	62.75	0.00
A重油	60.5～61.2	60.85	-0.65	61.5～62.0	61.75	0.00
LSA重油	61.0～61.7	61.35	-0.65	62.0～62.5	62.25	0.00

◎SS向けスポット卸市況 (円/リットル、ローリー届け、1.0～1.5円運賃圏)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
ガソリン	114.5～115.5	0.0	113.0～114.0	0.0	113.5～114.5	-0.5
灯油	64.0～65.0	0.0	62.0～63.0	0.0	63.0～64.0	0.0
軽油	95.0～96.0	0.0	94.5～95.5	0.0	94.5～95.5	0.0

◎ユーザー向け産業燃料油市況 (円/リットル、ローリー届け、1.5円以下運賃圏、大口向け、10月分)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
灯油	63.0～64.0	0.0	61.5～62.5	0.0	61.5～62.5	0.0
軽油	94.5～95.5	0.0	93.0～94.0	0.0	94.0～95.0	0.0
A重油	62.0～63.0	0.0	61.5～62.5	0.0	62.0～63.0	0.0
LSA重油	62.5～63.5	0.0	62.0～63.0	0.0	62.5～63.5	0.0

※前日比は中値ベース

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の京浜地区は製油所の京浜中値と油槽所の京浜中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の中京地区は製油所の中京中値と油槽所の中京中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の阪神地区は製油所の阪神中値と油槽所の阪神中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の軽油は製油所の課税、未課税、油槽所の単純平均値

※SS向けスポット卸市況およびユーザー向け産業燃料油市況は揮発油税・軽油引取り税を含む

※中値は小数点第3位を四捨五入

◎東商取バージ先物・日中取引(東京湾岸製油所・油槽所出しバージ取り、円/リットル)

ガソリン		始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高
	11月限	53.82	53.82	53.30	53.40	-0.87	20
	12月限	52.16	52.16	51.74	51.74	-0.96	9
	1月限	50.52	50.52	50.27	50.33	-0.96	19
	2月限	49.95	50.00	49.58	49.75	-0.89	25
	3月限	49.32	49.53	49.13	49.27	-0.89	249
	4月限	49.57	49.69	49.12	49.25	-0.96	385
	合計						707
灯油							
	11月限	57.30	57.46	57.30	57.31	-0.74	18
	12月限	56.60	56.75	56.60	56.71	-0.79	7
	1月限	56.20	56.30	56.08	56.18	-0.87	19
	2月限	55.81	55.96	55.74	55.82	-0.87	34
	3月限	55.26	55.28	55.08	55.16	-0.84	52
	4月限	54.31	54.45	54.17	54.30	-0.85	96
	合計						226
軽油							
	11月限	-	-	-	63.00	-0.20	-
	12月限	-	-	-	62.70	-0.20	-
	1月限	-	-	-	62.40	-0.20	-
	2月限	-	-	-	62.10	-0.20	-
	3月限	-	-	-	61.80	-0.20	-
	4月限	-	-	-	61.50	-0.20	-
	合計						-
原油							
	10月限	39.63	39.80	39.63	39.75	-0.81	9
	11月限	38.67	38.92	38.65	38.84	-0.75	60
	12月限	37.85	38.10	37.84	37.96	-0.70	153
	1月限	37.15	37.36	37.08	37.25	-0.68	366
	2月限	36.74	36.98	36.70	36.83	-0.68	2,021
	3月限	36.54	36.69	36.41	36.55	-	1,204
	合計						3,813

取組高 (9/30)

ガソリン 売 3,669 買 3,669

灯油 売 2,151 買 2,151

軽油 売 0 買 0

原油 売 55,396 買 55,396

1枚=50kl

◎東商取中京ローリー先物・日中取引(潮見および飛島油槽所出しローリー取り、円/リットル)

ガソリン		始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高
	11月限	54.81	54.81	54.81	54.81	-0.99	4
	12月限	-	-	-	54.80	0.00	-
	1月限	-	-	-	55.30	0.00	-
	2月限	-	-	-	54.80	0.00	-
	3月限	-	-	-	53.30	0.00	-
	4月限	-	-	-	53.30	0.00	-
	合計						4
灯油							
	11月限	59.50	59.50	59.50	59.50	-0.50	1
	12月限	59.00	59.00	59.00	59.00	-1.00	2
	1月限	58.50	58.50	58.50	58.50	0.00	2
	2月限	58.00	58.00	58.00	58.00	0.00	3
	3月限	-	-	-	61.00	0.00	-
	4月限	-	-	-	61.00	0.00	-
	合計						8

取組高 (9/30)

ガソリン 売 193 買 193

灯油 売 127 買 127

1枚=10kl

◎輸入採算価格（SR船型、韓国出し、関税・石油石炭税込、円/kl）

	北海道	前日比	京浜	前日比	中京	前日比	関門	前日比
ガソリン	53,493	-494	53,287	-494	53,081	-495	52,806	-495
灯油	59,464	-203	59,258	-204	59,052	-204	58,777	-205
軽油	58,906	-206	58,700	-207	58,494	-207	58,220	-207
LSA重油	54,395	-208	54,189	-208	53,983	-209	53,708	-210

※SR船型による輸入、LSA重油は免税ベース、軽油は硫黄分10ppm

※輸入採算価格はリムアジア製品レポート掲載のシンガポール市況（ペーパー）をベース

◎海陸市況格差（陸上4製油所平均-海上バージ市況）

ガソリン	-0.57	灯油	+6.63	未課税軽油	-0.77
A重油	+0.43	LSA重油	+0.40		

※4製油所平均＝千葉、川崎、中京、阪神

◎指標原油

WTI (NYMEX	11月限,	\$/bbl,	9/30	close)	54.07	-1.84
WTI (NYMEX ACCESS	11月限,	\$/bbl,	10/1	5:00pm 東京時間)	54.55	+0.48
ドバイ（ペーパースワップ,		\$/bbl,	10/1	東京夕刻)	58.32 ~ 58.36	-2.98
ドバイ（ペーパースワップ,		円/kl,	10/1	東京夕刻)	40,068	-1,943
ドバイ（ペーパースワップ,		円/kl,	9/25~10/1平均)		41,704	-692
ドバイ（ペーパースワップ,		円/kl,	9/17~9/23平均)		44,376	0
東商取ドバイ原油当限		(円/kl,	10/1	引け)	39,750	-810

◎原油輸入平均CIF価格（JCC、円/kl、財務省）

19/07/01-31	45,731r	19/08/01-31	45,420r	19/09/01-30	10月21日発表予定
19/07/01-10	47,273	19/08/01-10	45,533	19/09/01-10	43,687
19/07/11-20	45,246	19/08/11-20	45,946	19/09/11-20	10月7日発表予定
19/07/21-31	44,929	19/08/21-31	44,875	19/09/21-30	10月21日発表予定

◎Rim JCC予想値（円/kl）

19/9月	42,960	±0	19/10月	44,290	+150	19/11月	43,410	-1,050
-------	--------	----	--------	--------	------	--------	--------	--------

ドバイ（ペーパースワップ）は1日、9月25日～10月1日の平均値が41,704円と、9月24日の水準（9月18～24日）から2,034円下落した。サウジアラビアの石油生産が9月中に回復するとの見方が強まったことで、WTI原油、ブレント原油とともにドバイ・スワップが売られた。JCC(Japan Crude Cocktail) 予想値は、9月物が9月24日比変わらずの42,960円。10月物が同比10円安の44,290円。11月物が同比2,330円安の43,410円。

◎概況・トッパー停止状況＝3基、停止率13.8%
○陸上ローリー市況

1日の東名阪4リム製油所出しは軟調。月変わりを機に、改めて先安を見越した販価提示が広がった。特に前日に急伸した千葉や川崎、阪神は下げが目についた。ガソリンは千葉が前日比0.65円、川崎と阪神が同0.45円、中京が同0.5円のそれぞれ下げ。中間留分も千葉や川崎、阪神は精彩を欠いた。

地方出荷地は、四国の下げが目についた。灯油や重油は前日比0.65～0.85円の下げ。一方、北海道や東北は前日からほとんど変わらず。

○ドバイ原油市況

ドバイ原油価格は、東京時間の1日夕刻時点で前日比2.98ドル安の58.32～58.36ドル。これを基にした円建て製品コストは同1.9円安の43.8円と試算される。11月の国内製品コスト推定値は、9月26日～10月25日算定で10月推定値より0.7円安い44.1円となる見込み。なお、製品コストが現在から同水準で推移する前提で試算した週間コストは、1～7日分が前週比2.3円安の43.8円となりそうだ。一方、1日の製品輸入コストは前日と比較しすべての油種で下落している。

○元売り市中調達

1日の調達は東西で表面化せず。ただ、この日は民族系大手元売りがガソリンを物色した可能性があるという。

○10～1月のアセスメント評価対象について

- ① 10月最終日となる31日は木曜日となるため、通常通り翌日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。
- ② 11月最終日となる29日は金曜日となるため、12月2日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。
- ③ 12月最終日発行日は26日木曜日となります。26日のアセスメントは通常通り翌日の受渡物を評価対象とし、2～7日先までの受渡物が参考となります。
- ④ 2020年1月は6日月曜日からの発行となります。

○アセスメントメソドロジーの変更について

ローリーラックレポートは10月1日(火曜日)付で以下の点を変更しました。

- ① A重油のアセスメント対象を「硫黄分0.5%品」、LSA重油を「硫黄分0.1%品」としました。
- ② A重油の取引が少ない東名阪油槽所の八潮、横浜、中京、阪神でA重油のアセスメントを中止しました。
- ③ 中京油槽所のアセスメント適用出荷地を「名古屋港潮見埠頭(9号地)」だけにしました。

○リムホームページ刷新に伴うお知らせ

リム情報開発は10月7日(月曜日)、ホームページデザインを刷新いたします。これに先立ち、現行のホームページからのサーバー移行作業を6日(日曜日)に実施いたします。新サイト移行後、トップページのURL (<https://www.rim-intelligence.co.jp>) に変更はございませんが、レポートやニュースの閲覧画面のURLが一部変更となります。従いまして、当該ページをブックマークしてご覧いただいている場合、お手数ですが、新サイト移行後に再度、ブックマークしていただきますよう、お願いいたします。

また、リム・トレーディングボードのURLも変更となりますが、こちらは現行のURLから自動的にジャンプしますので、新しいURLにブックマークを変更ください。ご購読者の皆様には大変お手数をおかけいたしますが、ご協力いただきますよう、お願いいたします。その他、ご不明点がございましたら、当社までお問い合わせください。

◎北海道(苫小牧・石狩)

○概況

スポット流通玉市況はもち合った。原油市況を勘案すると、3日以降に適用される元売り各社の週次仕切りの引き下げが確実視されているため、オーダーの多くが先送りされている。2日渡しのオーダー自体が極めて少ないため、多くの卸業者が様子見に退いており、2日に通知される元売り各社の仕切り改定待ちとしている。

○ガソリン

61.5～61.7円(揮発油税込み115.3～115.5円)と前日から横ばい。

2日期限の各卸業者が唱える価格帯に変化はなく、動意薄で相場の変動は見受けられなかった。苫小牧出しでは、旧米メジャー系元

売り玉を原資に複数の広域ディーラーが115.3円を広く唱えた。また、民族系元売り玉を原資に複数が下限で115.5円を唱えて買い気を探っていた。

○灯油

63.3～63.5円と前日から横ばい。

苫小牧出しでは、民族系元売り玉を原資に複数ディーラーが2日期限で63.3～63.5円、63.6円以上を唱え。また、旧米メジャー系元売り玉を原資に2日期限で63.5～63.7円の唱

えと、いずれの卸業者ともに前日からの唱えを維持して様子見を続けている。苫小牧出しで63.5円までの玉は市中で一般的に入手が可能であるため、63.5円超えの玉は買付け対象になっていない。

○軽油

63.4～63.6円と前日から横ばい

苫小牧出しの2日期限の相場は63.4～63.6円と変動がなかった。民族系元売り玉、旧米

メジャー系元売り玉を原資に、課税、未課税ともに複数ディーラーの唱えは63.5円近辺に集中したままだ。

○重油

A重油は61.0～61.5円と前日から横ばい。

民族系元売り玉を扱う卸業者が相場を形成している。商社系、地場ディーラーの2日期限の唱えは苫小牧出しで61.0～61.5円、62円近辺。苫小牧出しで61.5円までの玉は一般的に入手可能なため、61.5円超えの玉は取引

対象になっていない。主要出し元玉のうち、旧米メジャー系元売り玉を扱う広域ディーラーが62.2円を唱えている。LSA重油はA重油比0.5円高ながら、10月渡しから供給可能なディーラーが限定されている。

◎東北(仙台)

○概況

仙台出しのスポット価格は灯油が小幅安。原油価格の軟化もあって、下押しムードが強かった。特に灯油は目先の気温が高めの予想となっているため、弱気見通しが聞かれる。一方で、月変わりを迎えたばかりのタイミングで、やや下げ足が早すぎるとの指摘も出ていた。青森、八戸では、ガ

ソリン、灯油が軟調。先物価格の下落で、早めに在庫玉を捌きたいとの考えが強いようだ。

○ガソリン

61.4～61.7円(揮発油税込み115.2～115.5円)で前日から横ばい。

仙台では、広域ディーラーの唱えが115.2～115.5円でレンジ自体は前日と変わらなかった。末端では消費税の値上がり前の駆け込み需要も思ったほどではなく、卸業者間でも買い意欲が薄いという。一方、届け取引では一段安になっており、EXベースに換算して

114円台半ばの出物はあるようだ。

青森、八戸では、広域ディーラーは114.8円の唱えだが、午後になって114.3円まで対応するところもあった。主に、在庫玉がベースだという。また、小名浜でも下げ足が早く、安値では114円台半ばの唱えも聞かれた。

小売市場では、八戸市内のSSでレギュラーガソリンが1日から140円に値上がりした。

○灯油

63.0～63.5円で前日から0.05円安に続落。

製油所玉では、広域ディーラーが63円に値下げ。目先、気温が高めの予報が出ていることもあって、総じて軟調な動きになっている。溜め込み用に安値の玉を継続して物色する向きはいるが、3日以降の仕切り価格で値下がりが見えているため、足元で買う必要性は乏しい。このため、下げてもオーダーには結

び付きづらいようだ。その他では63.5円の価格を維持する向きは多い。

青森、八戸では、広域ディーラーの63.6円だが、値下げの動きが顕著で63.3円のほか、最終的には62.8円の価格が聞かれた。

小売市場では、八戸市内のSSで給油がリットル当たり85円だが、配送は同90円で推移している。

○軽油

63.0～63.5円で前日から変わらず。

仙台出しの課税玉は、2日まで広域ディーラーの63.0円が下限を形成。未課税玉は商社系ディーラーなど複数が63.5円を提示しており、価格面で変化はなかった。週決めのインタンク向け商談では、仙台界限で届け92円前半と、前週から1.5円上回る価格の決着が

伝えられた。

青森、八戸の課税玉は、63.1円など広域ディーラーが提示する63円台前半が下限。一方で未課税玉は商社系ディーラーの64円を下値に、64.2円、64.4円など64円台前半が主流になっている。

○重油

A重油は61.0～61.5円、LSA重油は61.5～62.0で前日水準を維持した。

白油ほど値下げの動きはなく、2日の改定待ちの状態。仙台では、広域ディーラーの61.0円を維持しており、他は大手ディーラーの61.5円など、

各社とも2日分の価格は横ばいで対応。

青森、八戸では、広域ディーラーが61.8円は聞かれたが、下限は61円台半ばで変わらなかった。台半ばを維持しており、下値は変わらなかった。

製油所出しは全面安となった。JXTGエネルギーをはじめとした主要出し元各社が3日以降の仕切り価格を大幅に引き下げるとの観測から先高期待が強く、売りが先行した。原油、先物相場が大きく下落したことも卸各社の売り気を刺激した。

○ガソリン

製油所は千葉出しが前日から0.65円安の59.0～59.8円（揮発油税込み112.8～113.6円）、川崎出しが前日から0.45円安の59.2～60.0円（揮発油税込み113.0～113.8円）。

油槽所は東京・埼玉出しが前日から0.15円安の57.9～58.1円（揮発油税込み111.7～111.9円）、横浜出しが前日から0.2円安の57.5～57.7円（揮発油税込み111.3～111.5円）。

製油所出しでは、手持ちの処分売りが加速した。元売りの仕切り引き下げ観測で先安観が強まったことが背景にある。消費増税前に発生した仮需の反動で出荷が鈍るとの見方も売り気を誘った。油槽所が引き続き割安な価格で推移したことも製油所市況の引き下げ圧力となった。10月以降、中堅元売りが出荷枠を削減した川崎では、出物が少なくなっており、千葉対比でプレミアム含みとなった。民族系大手元売りが神奈川での買付けを進めたことも川崎プレミアムの拡大につながったようだ。

千葉製油所出しでは、中堅元売り玉を扱う複数広域ディーラーが112.8～113円台前半まで引き下げ、市場をけん引した。これに刺激される格好で、民族系元売り玉を担いだ複数の広域ディーラーは113円近辺～113.6円まで値下げした。一方、これらの元売り玉をそれぞれ担いだ別の卸業者や、旧外資系元売り玉を扱う商社系、広域系、地場系ディーラーや、旧米メジャー系元売り玉の取扱い各社などは113.8～116円近辺で打ち出した。ただ

し、こちらはやや割高に映ったようで、積極的に買い進める業者はごく限られたようだ。

一方、川崎製油所出しは113.0～113.8円と、千葉対比で0.2円上ざやで推移した。民族系大手元売りは113.8円で600kl程度調達を進めたもよう。広域系、地場系ディーラーが販売に応じたようだ。

油槽所出しも売りが優勢となった。原油、先物相場の下落で先安期待が強まったことが売り気につながったようだ。東京・埼玉では、中堅元売り玉、在庫玉をそれぞれ扱う広域系、地場系ディーラーが111.7～111.9円で買い気を探った。横浜では、在庫玉を担いだタンク系ディーラーや有力地場ディーラーが111.3～111.5円まで対応し、買い手の反応をうかがった。

SS届けベースのノンブランド・ガソリン卸市況は、1.5円運賃圏で114.5～115.5円と前日から大きな変化はみられなかった。

小売市場では1日、環状線沿いの世田谷界隈にあるガソリンスタンド(SS)がレギュラーガソリン看板価格を一斉に引き上げた。消費増税分が小売価格に転嫁された格好だ。周辺エリアでは140円割れの価格提示が姿を消し、140～145円が主流となっているという。同エリアのSS店長によると、9月30日23時頃に増税前の給油を求める消費者で長蛇の列ができたようだ。

東商取11月限の帳入値は前日比0.87円安の53.4円（揮発油税込み107.2円）。

○灯油

製油所は千葉出しが前日から0.4円安の61.5～62.5円、川崎出しが前日から0.4円安の61.5～62.5円。油槽所は東京・埼玉出しが前日から0.8円高の62.0～63.0円、横浜出しが前日から0.45円安の60.5～61.1円。

製油所出しでは、元売りの下げ期待や原油、先物相場の下落で先安期待が台頭、手持ちの消化売りが強まり、相場が圧迫された。10月入りにも拘わらず、気温が高い日が続いていることが市場の弱気を誘っている面もありそうだ。

千葉、川崎両製油所出しでは、中堅元売り玉を扱う複数の広域系、地場系ディーラーが61.5～62.5円で販売を進め、これが新たな相場を形成した。民族系最大手元売り玉の取扱い地場ディーラーが62円近辺で追随。旧外資系元売り玉を扱う商社系、広域系ディーラーや、旧米メジャー系元売り玉を扱う商社系、広域系ディーラーは62円台前半～62.5円まで値下げし、買い気を探ったようだ。一方、

これらの元売り玉をそれぞれ担いだ別の卸業者や、民族系元売り玉の取扱い各社は62円台後半～64円近辺で売り唱えた。ただし、こちらは買い妙味に欠け、買い手の関心は低かった。

油槽所出しはまちまちだった。東京・埼玉では、前日に積極販売に動いた在庫玉の取扱い大手ディーラーが大幅に値上げしたため、安値玉が後退。相場が押し上げられた。独歩安だったため、オーダーが殺到し、想定以上に在庫が減ったことが背景にあるようだ。取引相場は62.0～63.0円まで切り上がった。対照的に、横浜では売りが先行した。原油、先物相場の大幅安を受け、売り気が台頭したため相場に下押し圧力がかかった。在庫玉を扱う複数の広域系、地場系ディーラーが60.5～61.1円で販売を進め、これが相場を形成した。

東商取11月限の帳入値は前日比0.74円安の57.31円。

○軽油

製油所出しの課税玉は千葉が前日比0.4円安の60.6～61.6円、川崎が同0.2円安の60.8～61.8円。未課税玉は千葉、川崎ともに同0.1円安の62.5～62.8円へいずれも反落した。油槽所出しは東京・埼玉が前日比1.3円高の62.0～63.0円へ反発したが、横浜は同0.35円安の59.8～60.3円へ下落した。

原油市況を勘案すると、3日以降の仕切り引き下げが確実視されている。これらを製油所出荷玉、横浜油槽所出荷玉を扱う卸業者が材料視し、相場の下落につながった。対照的に東京・埼玉油槽所では、1日渡しからの積極的な売りが後退し、相場の上昇につながった。前日の時点で東京・埼玉油槽所の売りが京浜地区で突出していたため、オーダーが集中したことも影響したようだ。

製油所出しの課税玉は、2日渡しから中堅

元売り玉を扱う卸業者の攻勢が台頭した。複数の広域ディーラーの唱えは千葉で60.6～61.3円、62.0円以上。川崎で60.8～61.1円、62.0円以上と対応が分かれた。10月商談から川崎出荷枠が削減されたため、川崎出しでは慎重な販売姿勢を取るディーラーが増えた。半面、川崎出荷枠の削減分を千葉出しに振り替えて受注を狙う動きが広がっている。これを照準に民族系最大手玉を原資に61.7円まで追随する動きがあったが、主要出し元玉、民族系元売り玉を扱う卸業者の多くは62.0円以上を唱えて様子見に退いていた。このため、千葉の相場は60.6～61.6円、川崎の相場は60.8～61.8円と広範にわたることとなった。

未課税玉の相場も下落した。主要出し元玉を扱う複数ディーラーが先安を見越して、2

日渡しからマージンを圧縮した。千葉、川崎で複数の商社系、広域ディーラーが62.5～62.8円、62.9円以上を唱えて買い気を探った。市中で62.8円までの玉が厚味を増したことや、内陸向けの出荷で運賃面で優位にある東京・埼玉油槽所で63.0円までの玉が一般的に入手可能であるため、62.8円を超える玉に対する買い手の関心が後退した。

油槽所出しは、東京・埼玉では、1日渡しから攻勢していた広域ディーラーの一角が未課税で63.0円まで値上げに踏み切った。前

日の時点では61.0円と京浜地区で突出して売り込まれていたため、オーダーを集めて、一旦値取りすることを優先したようだ。他の広域、地場ディーラーの課税玉が下限で62.0円まで流通していた。また、横浜で課税玉で広域、地場ディーラーの複数が59.8～60.3円と広く買い気を探り、これが相場を形成した。

東商取10月限の帳入値は前日比0.2円安の63.00円。また、京浜の海上市況は62.8～63.8円と前日から横ばいとなった。

○重油

製油所出しは反落。A重油は千葉が前日比0.4円安の59.5～60.5円、川崎が同0.1円安の59.8～60.8円、LSA重油は千葉が前日比0.4円安の60.0～61.0円、川崎が同0.2円安の60.2～61.2円へいずれも切り下がった。

油槽所出しは東京・埼玉のLSA重油が前日比0.5円高の59.5～60.0円へ反発したが、横浜のLSA重油は58.8～59.0円と前日から横ばいとなった。

製油所出しのLSA重油は、中堅元売り玉を扱う卸業者が相場を牽引した。広域ディーラー複数の唱えは、2日期限で千葉が60.0～60.5円、61.0円以上。川崎が60.2～60.5円、61.5円、販売休止と対応が分かれた。白油同様に、川崎出荷枠の削減に伴い、千葉出しで受注を喚起する動きが広がった一方、川崎出しでは慎重な販売姿勢を強める動きが目立った。他の出し元玉を扱う卸業者で中堅元売り玉を扱う卸業者が唱える水準まで追従し

てくる動きは少数にとどまり、相場は千葉で60.0～61.0円、川崎で60.2～61.2円と広範にわたることとなった。このうち、民族系最大手玉を原資に60.3～60.4円、旧外資系元売り玉を原資に60.8～61.0円で追従していたが、数社に限られた。主要出し元玉を原資とした商社系、広域ディーラーの唱えは61円台前半～62円台前半。民族系元売り玉のディーラーの主流唱えは61.5～62.5円。A重油の唱えはLSA重油対比で0.4～0.5円安が主流。

油槽所出しは、東京・埼玉では広域ディーラーの一角が2日渡しから60.0円まで値上げに踏み切った。灯油、軽油と同じく、前日の時点では京浜地区で59.0円と積極的に買い気を喚起していたが、オーダーを集めたため、一旦様子見に退いたようだ。他の広域、地場ディーラーもこれを照準に下限で59.5円を唱えて買い気を探っていた。横浜は前日の相場から影響を及ぼす動きはなかった。

◎中京

○概況

製油所、9号地ともにガソリンが弱含んだ。根強い先安観や先物急落を受け、買い気の後退が伝えられた。市場関係者によると、JXTGエネルギーや出光昭和シェルシリーズ仕切り価格について、前週比で1.5～2円の下げ観測が広がっている。

○ガソリン

製油所出しは前日比0.15円安の58.7～59.2円(揮発油税込み112.5～113.0円)、9号地も同0.1円安の58.7～59.2円(同112.5～113.0円)。

2日引取り分の製油所、9号地は小幅続落。根強い先安観から前日同様に買い気の後退を伝える市場関係者が多かった。

四日市製油所出しでは、広く残った113円台の売買唱えに関心を示す市場関係者は限られた。系列仕切り価格の引き下げ観測を織り込み、買い気は前日並みの112.5円や112.8円、さらに113円まで。9月末に台頭した仮需も一巡したため、「ある程度リラックスして次の材料を見極めたい」(地場系)などの声も寄せられた。販価の提示もこの日は形だけの卸業者が少なくなかったという。「113円台前半の販価に対し、オーダーはゼロ」(同)。

9号地も続落。やや高めに設定していた大手

タンク業者が値下げに応じ、112.5～112.8円を販価に設定したようだ。足元原油の下落で輸入採算値が軟化していることも修正余地を広げたようだ。9月30日時点の輸入採算値は107.5～108円相当。

広域系間では、商社系ターミナルや丸中ターミナル中心に前日並みの売買唱えやアイデアとして112.5円や112.8円、113円が伝えられた。製油所玉同様、先安観測から113円を超える出物に対し、市場の関心は薄れた。

東商取中京ローリー11月限は前日比0.99円安の54.81円(同108.61円)で日中取引を終えた。出来高は40kl。

清水出しでは、広域系中心に112.5～113円の売買唱えが散見された。ただし同地区でも先安を見越し、買い気は薄いと地場系が伝えた。

○灯油

製油所出しは前日から変わらずの61.0～61.5円、9号地は同0.15円安の60.5～61.5円。

2日引取り分の製油所出しは前日水準を維持。10月に入ったものの、高めの気温が続いているため、「灯油への関心はいまひとつ」(広域系)などの声が寄せられた。大手商社間での北向け在庫積み上げも第一弾はおおよそ一巡しており、「新規の市中買いは見送り」(商社)。

四日市玉を取り扱う広域系中心に61～61.5円の売買唱えが広く残り、市況を形成。前日同様62円台の出物も散見されたが、関心を示

す市場関係者は見当たらない。

9号地は小幅続落。大手タンク業者が値下げに応じたほか、先物安を織り込み、広域系間でも目線は下向きとなった。商社系ターミナルや丸中ターミナルを中心に前日並み60.8～61.5円の売買唱えが残ったほか、60.5円まで対応、ないしは買い気の後退が寄せられた。

東商取中京ローリー11月限は前日比0.5円安の59.5円で日中取引を終えた。出来高は10kl。海上市場の京浜渡しは55円台で推移しており、低空飛行のまま。

○軽油

製油所出し課税玉は前日から変わらずの60.5～61.5円、未課税玉も変わらずの62.3～62.8円、9号地は同0.05円安の60.7～61.5円。

2日受渡しの製油所出しは総じて様子見。課税玉および未課税玉ともに前日から大きな動意はなかった。四日市玉を中心に広域系

間で課税玉60.5～61.5円、未課税玉62.3～62.8円の売買唱えが残り、次の材料待ち。他油種同様、先安観測が根強く、この日はアイデア価格の側面も強かった。

9号地は小安い。大手タンク業者は値下げに応じ、未課税玉で61.5円まで対応した。広

域系間では、商社系ターミナルや丸中ターミナルを中心に課税玉や未課税玉ベースで60.7円や60.8円、61円など前日並みの売買取引が残った。

全国の中小陸運向けに、価格指標の1つとして挙げられている日本貨物運送協同組合連合会と大手フリート4社が進める価格交渉

は、1日に9月分が前月比0.3円と0.5円の2本立てでまとまったようだ。形態はSS直営価格。8月同様、今回も売り手と買い手の意見がまとまらず、最終的に統一価格ではなく2本立て価格で双方合意したと伝えられた。4社中3社が大手元売り各社の仕切りコストを、残り1社が市況を参考に交渉を進めたようだ。

○重油

製油所出しLSA重油は前日から変わらずの60.5～61.5円、9号地も変わらずの60.5～61.5円。

2日引取りの製油所、9号地は前日水準を維持。様子見する卸業者が多く、両センターともに前日並みの売買取引60.5～61.5円が広

く残った。各種入札や産燃納入交渉も峠を越え、積極的に動意付く市場関係者は見当たらない。

製油所出しA重油も目立った価格改定は浮上せず、前日並みの60.0～61.0円。

◎阪神

○概況

スポット市況は、製油所出しのガソリン、課税軽油、重油が反落。原油の値下がり背景とする先安観の台頭を受け、手持ち玉の消化を急ぐ卸業者が散見された。灯油、未課税軽油は横ばい。仕切り価格の改定待ちなどで価格改定を見送るディーラーが多かった。

○ガソリン

製油所出しが前日から0.45円安の59.0～59.7円(揮発油税込み112.8～113.5円)、油槽所出しが同0.3円安の58.9～59.7円(揮発油税込み112.7～113.5円)。

スポット価格は、製油所出し、油槽所出しともに続落。原油相場の下落が弱材料視されている。週間ベースの原油コスト低下を勘案すると、元売りが2日に実施する仕切り価格改定に関し市場では1.5～2円程度の引き下げとの観測が流れているが、仮に原油相場が現在の水準で推移すれば翌週16日の改定も引き下げとの見方が浮上している。このため業者間では月間平均玉、油槽所玉を中心に先安を警戒した販価の下方修正が表面化。スポット市況に対し、ガソリン先物が割安に推移するのも相場の重しとなっている。一方、2日渡し分

の荷動きは少なめ。消費増税による店頭販売が当初期待にくらべ伸び悩んだ中、手当てを検討するSSは引き続き仕切り価格改定後のオーダーを希望するところが多い。

製油所出しでは、中堅元売り玉など複数ルート仕入れを有する卸業者が、2日渡し分を対象とする112.8～113.2円の販価を提示。別の広域ディーラーは112.9～113円で打ち出している。中堅元売りルートでは113円の唱えが浮上。この113円を唱えを参考に下値を探る卸業者もいたようだ。また、四国の元売り玉や四国の元売り玉などをベースとする113円の商談も浮上。他社玉を担ぎ113円台前半～113.5円で打ち出す業者も見受けられた。113.5円の出物は民族系元売りルートでも手当て可能という。113.5円超の売り物も多数あ

るが、買い手の反応はやや鈍くなるようだ。
一方、購買力のある買い手向けには蔵取りで112円台前半～半ばの売り込みもあるとされるが、この水準の出物が業者間で広く流通した様子は窺えず。

油槽所出しでは、堺ターミナルで112.7～113円台前半の唱えが浮上。櫻島ターミナルでは113～113.5円の出物がみられた。油槽所では113.5円より高い見積もりも流通するが、買い手の反応は薄かった。一方、東シナ海では

台風18号が北上しているが、現時点で阪神圏への転送船の遅れなどは生じていないという。

元売りの市中調達関連では、民族系大手元売りが、陸上のガソリンを113円程度で手当てした可能性が指摘されるが、詳細は判然としない。

阪神出しの届け取引では、EX 換算112円台半ば～113円台半ばで商談されているという。

西日本の海上市況は、現在60円程度で推移している。

○灯油

製油所出しが前日から横ばいの62.0～62.5円、油槽所出しが同横ばいの62.0～62.5円。スポット価格は製油所出し、油槽所出しともに横ばい。前日並みの売唱えが複数残り、相場は膠着状態となっている。現時点で実需は本格化しないものの、月末の需要増への期待感から、踏み込んだ売唱えが表面化しにくいとの意見も聞かれた。

製油所出しでは、中堅元売り玉や四国の元売り玉などをベースに販価を組み立てた卸業者が、2日渡し分を62円で販売。四国の元売り玉など複数ルート仕入れを有するディーラーは62～62.5円の販価を示した。民族系元売りルート、中堅元売りルートでも62円の唱えがそれぞれ聞かれる。また、広域ディーラーの一角は62.1～62.2円を提示。複数ルート仕入れを有する卸業者は62円台前半で打ち出

している。また、旧米メジャー系元売りなどとみられるルートでは62.4～62.5円の唱えが浮上。中堅元売り玉や他社玉をベースとする62.5円の販価も聞かれた。62.5円を上回る売り物も多いが、買い手の反応はやや鈍くなるようだ。

油槽所出しでは、堺ターミナルで62～62.5円の出物が残存。櫻島ターミナルでも62～62.5円の唱えが残った。62.5円超の見積もりも寄せられているが、積極的に商談された様子は窺えない。

官公需案件では、神戸拘置所向けの10～12月納め灯油24kl が前期比3.3円高の届け63.3円で落札された。

西日本の海上市況は、現在55円程度で推移している。

○軽油

製油所出し課税玉が前日から0.35円安の60.3～61.0円、未課税玉が同横ばいの62.0～62.5円、油槽所出しが同0.5円安の60.5～61.5円。

スポット価格は製油所出しの課税玉、油槽所出しが反落。原油相場の軟調推移が弱材料視されている。月末の枠未消化を警戒した売りも一部出ているという。製油所出しの未課

税玉は横ばい。前日並みの売り物が複数残り、相場はもち合いとなっている。

製油所出し課税玉では、広域ディーラーの一角が、2日渡し分を60.3～60.5円で販売。四国の元売り玉や中堅元売り玉などをベースに販価を組み立てたディーラーは60.5～60.7円で商談を進めた。60.5円の唱えは中堅元売りルートでも浮上。複数ルート仕入れをベー

スとする60.7～60.8円の唱えも聞かれた。このほか四国の元売りルートでは60円台後半～61円の唱えが寄せられている。61円を上回る唱えも寄せられているが、買い手の反応は薄いようだ。

製油所出しの未課税玉は、2日渡し分を対象とする62～62.5円の売唱えが残存。この範囲内で旧米メジャー系元売りなどの取扱い業者など、複数のディーラーが販価を示した。卸業者ごとに販価の修正は出ていたものの、修正幅は小幅に留まっている。62.5円超の出物

もあるが、未課税玉としてはやや買い妙味に欠けるという。

油槽所出しでは、堺ターミナルで60.5～61.5円の唱えが聞かれた。全体的には61.5円までで玉を確保可能な卸業者が多そうだ。櫻島ターミナルでは62～62.5円の唱えが寄せられている。

インタンク向けの週次折衝では、関西圏に拠点を置く大手民間バス向けが、前回比2円高で妥結している。

西日本の海上市況は、現在63円台前半で推移している。

○重油

A 重油は製油所出しが前日から0.25円安の60.0～61.0円、LSA 重油は製油所出しが同0.25円安の60.5～61.5円、油槽所出しが同0.25円安の60.7～61.7円。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しともに反落。原油安と買い気の弱さを反映した。仕切り価格改定後の10日渡し分以降での調達を希望する需要家が多く、踏み込んだ価格を提示しても色よい返事を得にくい側面も大きいという。

製油所出しのLSA 重油では、広域ディーラーの一角が、2日渡し分を60.5円で提示。中堅元売りルートでも60.5円の唱えが聞かれた。足元は卸業者ごとの提示価格の開きも出ており、民族系元売り玉や中堅元売り玉を扱う卸業者は61～61.5円を提示。複数ルートの仕入

れを有するディーラーは61.2円で打ち出している。また、旧米メジャー系元売りなどとみられるルートでは61.3円の唱えが残存。旧外資系元売りともみられるルートでは61円台前半～61.5円の唱えが寄せられている。61.5円超の売り物に関して、買い手の反応は鈍いようだ。一方、60.5円を下回る唱えも寄せられているが、業者間でここまで踏み込む売り手は限られている。

製油所出しのA 重油は60～61円。60円を割り込んだ出物もあるが、現時点でここまで対応可能な業者は少ないようだ。

西日本の海上市況は、現在A 重油が現在60円程度、LSA 重油が60円台半ばで推移している。

◎四国

○概況

スポット市況は全油種で弱含み。原油の値下がり受け、先安を警戒した売り込みが強まっている。ただ、2日に実施される仕切り価格の改定は引き下げ観測が濃厚で、前日に引き続き注文を手控える買い手が多い状況に変わりはない。

○ガソリン

前日比0.2円安の59.5～60.0円(揮発油税込み113.3～113.8円)。

スポット価格は反落。原油安が相場の重荷だ。前日時点で様子見に徹した業者の中でも、販売に転じる動き見受けられた。一方、前日は消費増税前の駆け込み需要でガソリンの店頭販売が多少伸びたようだが、売れ行きは店舗ごとのばらつきも出ており、全体的には当初予想ほど客足は振るわなかったとの感想が多い。なお、小売り市況では10月1日から消費増税分を転嫁し、店頭価格を引き上げる動きが出ているという。

坂出では、民族系元売り玉などの取扱い業者が、2日渡し分を113.3～113.5円で商談。民

族系元売り玉をベースとする113.5円の唱えも聞かれた。また、他社玉をベースに販価を組み立てたディーラーは113.7～113.8円を提示。民族系元売りルートでは113.7円の唱えも残った。このほか広域ディーラーの一角も113.8円で打ち出している。113.8円超の売唱えも寄せられているが、買い手の反応は総じて冴えない。

菊間の業者間取引では、115円台後半の売り物が見積もりベースで手当て可能となっている。

届け取引では、香川県の中讃地区向けが、届け114円台前半で売り込まれた。

○灯油

前日比0.85円安の62.0～62.6円。

スポット価格は続落。原油相場の下落を映した。ただ、薄商いの状況は相変わらずで、値下げの効果は限定的に留まるという。

坂出では、民族系元売り玉など複数ルートの仕入れを有する卸業者が、2日渡し分を62～62円台前半で販売。広域ディーラーの一角は62.3円の販価を示した。また、他社玉をベースに販価を組み立てた卸業者は62.3～62.5

円を提示。民族系元売りなどとみられるルートでは62.6円の唱えが寄せられている。62.6円超の見積もりも多いが、買い手の反応は総じて冴えない。

菊間の業者間では、64円程度の売り物が見積もりベースで調達可能となっている。

届け取引では、香川県の中讃地区向けが、届け63円台半ばで売り込まれた。

○軽油

前日比0.2円安の61.2～62.2円。

スポット市況は続落。販価を下方修正し、受注喚起を図る卸業者が見受けられた。

坂出出しの課税玉では、民族系元売り玉などとみられるルートから、2日渡し分を対象とする61.2～61.4円の唱えが浮上。他社玉をベースとする61円台半ばの販価も伝えられた。民族系元売りルートなどでは61円台後半～62円にかけての出物も見られた。一方、未課税

玉は62円台前半から手当て可能となっているが、課税玉の値位置を勘案すると、オーダーの入りやすい水準は62.2円までという。

菊間の業者間では、未課税玉が同63円台半ばで買付け可能となっている。

届け取引では、香川県の中讃地区向けが、課税玉の場合届け63円程度、未課税玉が同64円台前半程度で見積もりが出された。

○重油

A 重油が前日比0.65円安の60.5～61.2円、LSA 重油が同0.65円安の61.0～61.7円。

スポット市況は反落。原油安を背景に前日の様子見ムードがにわかに後退しており、上値が重くなっている。

坂出出しのA 重油では、民族系元売り玉など多様な仕入れを有する卸業者が、2日渡し分を60.5円で提示。他社玉をベースとする60.6～61円の唱えも聞かれた。また、複数ルートでの仕入れを有するディーラーは60.7～60.8円

で商談。民族系元売り玉などとみられるルートでは60.9～61.2円の唱えも寄せられている。

LSA 重油は61～61.7円。A 重油、LSA 重油ともこれらの販価に該当しない唱えも聞こえるが、積極的に商談された様子は窺えない。

菊間の業者間では、A 重油で62円程度、LSA 重油で62円台半ばの出物が見積もりベースで手当て可能となっている。

届け取引では、香川県の中讃地区向けが、A 重油の場合届け62円程度、LSA 重油の場合合同62円台半ばで売り込まれた。

◎九州（福岡）

○概況

スポット価格はガソリンが続落している。前日の同業他社の割安な打ち出しを背景に、オーダー獲得のために値下げして売り込みをかけるケースが散見される。この日は原油市況およびTOCOM先物市況が大きく切り下がっているとあって、卸業者間の先安観も背景にあるようだ。

中間三品についても上値は重い。3日以降の元売り仕切り価格には1.5～2円ほどの値下げが予想されているが、この日の原油安を背景に翌週10日以降についても引き下げとなる可能性が高い。先安観から早めに消化を進める動きが出ており、値下げを進める業者が多かった。

○ガソリン

前日比0.35円安の59.0～59.7円（揮発油税込み112.8～113.5円）。

スポット価格は軟調に推移している。前日に割安な唱えを提示した業者はこの日様子見したものの、相場の先安を予想した他社が同社の唱えと同程度、もしくはやや下回る水準へと値下げしている状況だ。しかし、消費増税前の駆け込み需要が収束したために店頭販売はいまひとつ。元売りの仕切り価格の引き下げも予想されているとあって、売り込みをかけても足元での買い気は限定的な状況だ。

西戸崎出荷では113.2～113.3円へと唱えを引き下げる業者が散見される。先安観から月の早い段階で売り込もうとする動きがあるようだ。これをベースに113.5～113.9円と

いった唱えも提示されているが、113円台後半の玉にはほとんど買い手がつかないという。

一方、油槽所玉をベースに価格を算出する複数業者の中には、112.8円などで売り込みをかける動きも出始めた。原油と先物市況の軟化を反映したようだ。前日に113円で売り込みをかけていた大手広域ディーラーは、この日価格の提示を手控えたという。

東浜出荷では113～114円といった唱えが四国の中堅元売り玉や油槽所玉をベースに提示されている。しかし、西戸崎出荷で112円台が出回り始めたことから112.8～112.9円など113円割れまで打ち出すケースも出ている。

○灯油

前日比0.1円安の63.0～63.6円。

スポット相場は小幅安で推移している。前日に高値圏を形成していた業者が、唱えを引き下げてオーダー喚起を図っているもよう。引き続き先安が意識されている状況だ。

西戸崎では前日に64円台を提示していた業者の多くが63円台へと唱えを引き下げている。見積もりでは63.5～63.6円といった売値が広く提示されており、買い手はこれらの玉が容易に確保できる。また、63円台半ばが

広く提示されていることから、中には先物玉などを用いて63.2円などを提示する業者もいる。64円台を引き続き提示する売り手もいるものの、同価格帯には割高感があり買い手が付きにくい。

東浜では西戸崎同様、63.2～63.3円の提示もあるが、中には63円まで踏み込んで買い気を探る動きもあった。荒津出荷では63.5～64.4円といった唱えが一般的なようだ。

○軽油

前日から横ばいの62.5～63.0円。

スポット相場は前日と同水準を維持した。3日以降の元売り仕切り価格の大幅下げを予想し、先んじて唱えを引き下げる業者も多い。しかし、買い手は先安観からオーダーを先延ばしする傾向にあり、買い気は盛り上がり欠けるという。

課税玉の売値では西戸崎や東浜で62.5円が提示されていた。複数ルートから提示される市

況連動玉がベースとなっているようだ。こういった価格に追随し西戸崎では62.6～62.8円、63円といった唱えも見積もりで提示されている。

未課税玉の売値であれば引き続き63円までが課税玉と対比して買い妙味のある水準となっている。前日に64円台を打ち出していた売り手も、徐々に63.5～63.8円まで唱えを引き下げており、これらの玉は西戸崎や荒津、東浜など複数の出荷地で手当てできる。

○重油

A重油は61.5～62.0円、LSA重油は62.0～62.5円といずれも前日から横ばい。

スポット市況は前日の水準を維持した。A重油では62円台が見積もりベースの売値とあり、西戸崎や荒津で提示されている唱えは62～62.5円のレンジ内に収れんしている。しかし、依然として61.5円を提示して買い気を探る業者がいることから、62円超えの玉には割高感があるようだ。

LSA重油はA重油比で0.5円の上ザヤを形成して推移している。62～62.5円が複数の売り

手から提示された。

入札関連では、10～11月納期の福岡刑務所向けのA重油112klが届け61.9円で落札された。EX換算では60円台半ば～後半に相当するため、足元のスポット市況を大きく下回る応札となったようだ。

また、10～12月納期の大分刑務所については届け60.3円。2番札は64.6円で、4.3円高い。足元の民族系最大手元売りのA重油の基準値は60.5円とあって、これを下回る応札となっている。

◎マーケットニュース

○総務省＝9月の軽油元売り指定業者数、8月から増減なし

総務省税務局都道府県税課が1日明らかにした9月の軽油元売り指定業者動向によると、製造元売り、販売元売り、元売りともに前月から増減はなかった。指定業者数は20社で変わりはない。

○陸上入札＝福岡刑務所向け10～11月納めA重油、届け61円台で落札

福岡刑務所が1日に開札した、10～11月納めA重油112klの一般競争入札は、届け61.9円で落札された。前月比で0.1円安となる。落札したのはシューワ。2番札小林商事が62.9円だった。8～9月98kl分の前回入札も同社が届け61.99円で落札している。

○宇部市交通局＝市バス向け10月納め軽油、届け95円台で落札

宇部市交通局が27日に開札した10月納め市バス軽油70klの競争入札は、届け95.1円で日通商事が落札した。9月納価91.5円から3.6円の上げ。

◎お知らせ

○季刊誌『エネルギー通信』発刊のお知らせ

リム情報開発は8月20日、四半期のエネルギー動向が一気に把握できるように、初の季刊誌として『エネルギー通信』を発刊します。石油、ガス、石炭など化石燃料の市況動向や各種貿易統計、小売自由化が進む電力やガス事業を含む国内エネルギー業界の最新事情、その他エネルギーにかかわる幅広いトピックを取り上げます。リム情報開発がこれまでに蓄積してきた各エネルギーの価格情報をもとに、エネルギーの『いま』を易しく、かつ詳しく解説します。リムが得意とする日々の取引動向をミクロの情報とすると、『エネルギー通信』では、業界の大きな流れを俯瞰するマクロの情報を掲載していきます。『エネルギー通信』は2、5、8、11月の各月下旬に発刊いたします。購読はWEB閲覧のみとなり、価格は年間契約の場合18,000円(各号5,000円)です。下記のリンクよりお申し込みください。

【目次】

- 1 各種市況サマリー
- ① 原油②LNG③LP ガス④ガソリン⑤電力⑥石炭
- 2 エネルギーアウトLOOK
- ① エスカレートする米国・イラン対立の経緯②ホルムズ海峡を巡り偶発的事態発生リスク高まる⑤原油市場の見通し-3つのシナリオほか
- 3 アジア各国の製油所稼働状況
- 4 各種貿易統計
- 5 国内エネルギー事業
- 6 エネルギー・フォーカス
- 7 ニュースアーカイブ

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/eneletter>

○「石油市場“超入門”」および「フォローアップ研修」合同研修開催

- ・定員15名の少人数制
- ・1名様から参加可能
- ・受講者同士のワークショップで発信力・傾聴力もスキルアップ

「石油”超入門”」 10/24、10/28

「フォローアップ」 10/25、10/31

13:00～17:00（全日程共通）

リム情報開発(株)セミナールーム（東京都中央区八丁堀）

受講料10,000円／回（税別）

両方同時お申し込みの場合は17,000円（セット割・税別）

詳しくは弊社HPをご覧ください。

◎リムエネルギー総合指数22種（レックス22、2010年平均＝100）

1日のレックス22は、前日から1.73ポイント下落し93.50です

◇弊社ウェブサイトURLは www.rim-intelligence.co.jp

◇リム価格は登録商標です。登録番号は第5387777号。

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧 [東京本社]

Tel: 03-3552-2411, Fax: 03-3552-2415

e-mail: info@rim-intelligence.co.jp

[シンガポール支局]

Tel: (65)-6345-9894, Fax (65)-6345-9894,

e-mail: hagimoto@rim-intelligence.co.jp

[北京支社]

Tel: (86) 10-6498-0455, Fax: (86) 10-6428-1725

e-mail: guanhong@rimbj.com

[インド支局]

Tel: (91)-98795-50717, e-mail: kamlesh@rim-intelligence.co.jp

[上海支社]

Tel: (86)-21-5111-3575, e-mail: rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2019 RIM INTELLIGENCE CO.